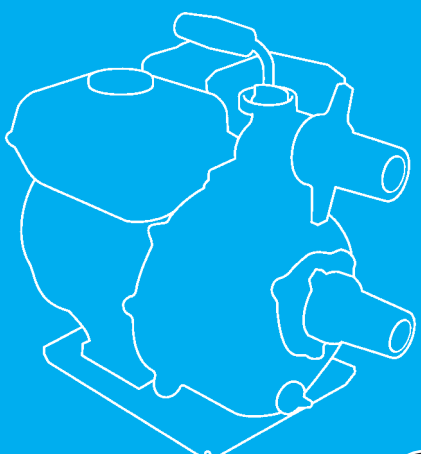
HONDA
汎用製品

ポンプ

WH15X・WH20X

取扱説明書



ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

・本機を操作するときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

---

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン　エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいたポンプで安全かつ能率的な作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。
本書はWH15Xを中心にまとめてあります。

目次

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう‥4
安全ラベル ‥‥‥

長期間使用しないときの手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
故障のときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
主要諸元・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
同梱部品の組付けかた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは誰にも本機を使用させないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 日常点検、整備を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して所定のレベルを超えないように補給し、燃料給油キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。排気口は風通しの良い場所に向け、ご使用になる方はもちろん、まわりの人や動植物などにも十分注意してください。
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内など換気の悪い場所では使用しないでください。酸素不足や有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

警告

- 本機は平坦な場所で使用してください。不整地(地面が凹凸していたり軟らかい場所)や傾斜地、崖の近くで使用すると、本機が振動により転倒、移動、落下し損傷するばかりでなく、燃料漏れにより火災のおそれがあります。
- 本機の改造は行わないでください。故障の原因となるばかりでなく思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 海水、化学薬品、油脂類などには使用しないでください。本機は海水、化学薬品、油脂類などによる腐食を防止する対策は施されていないため故障の原因となります。
- 泥水を吸水しないでください。ポンプ内部が損傷するおそれがあります。
- ガソリンなどの燃えやすい液体や、酸など酸性の強い液体には使用しないでください。本機を損傷するばかりでなく、火災や爆発などが発生し死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- メタンガスなど可燃性のガスが発生する可能性のある場所では使用しないでください。火災や爆発などにより死傷事故のおそれがあります。また下水道などで使用する場合は、可燃性のガスが発生していないことを確認してから吸水してください。

●使用中

- 使用中は建物およびその他の施設から、本機を１m以上離してください。また本機のまわりに危険物(油脂類、セルロイド、火薬など)や燃えやすい物(わらくず、紙くずなど)を近づけないでください。
  本機の熱や排気ガスにより火災のおそれがあります。
- 使用中に送水(吸水)しなくなった場合は、すぐにエンジンを止めてください。送水(吸水)しない状態で運転を続けると、ポンプ内の残水が過熱し誤って触れるとヤケドをするおそれがあります。
- 使用中や停止直後はエンジン本体やマフラなどに触れないでください。熱によりヤケドをするおそれがあります。
- 使用中は本機を傾斜させたり、移動しないでください。転倒や振動などにより燃料漏れを起こすおそれがあります。

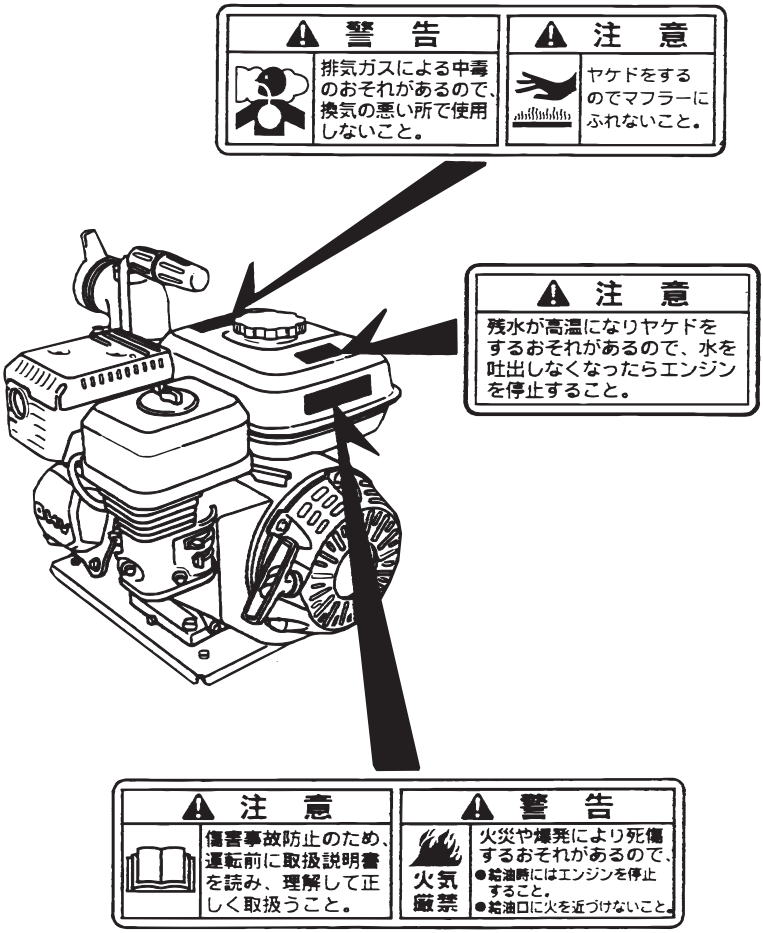
警告

●使い終わったら

- 気温が低く水が凍結する気象条件で使用した場合は、排水プラグを外しポンプ内の水を抜いてください。ポンプ内に水が残っていると凍結し、部品が破損するおそれがあります。
- 各部の点検･清掃で本機に触れるときは、エンジンを停止し各部が冷えるまで十分に時間をおいてください。
- 長期保管前には、タンク内の燃料を抜き取り本機を火気や湿気のないところに保管してください。また、抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発の危険があるので、所定の燃料タンクなどに入れ保管してください。
- 運搬時には、燃料タンク、キャブレータ内の燃料を抜き取り、本機が転倒したり動いたりしないようしっかり固定してください。

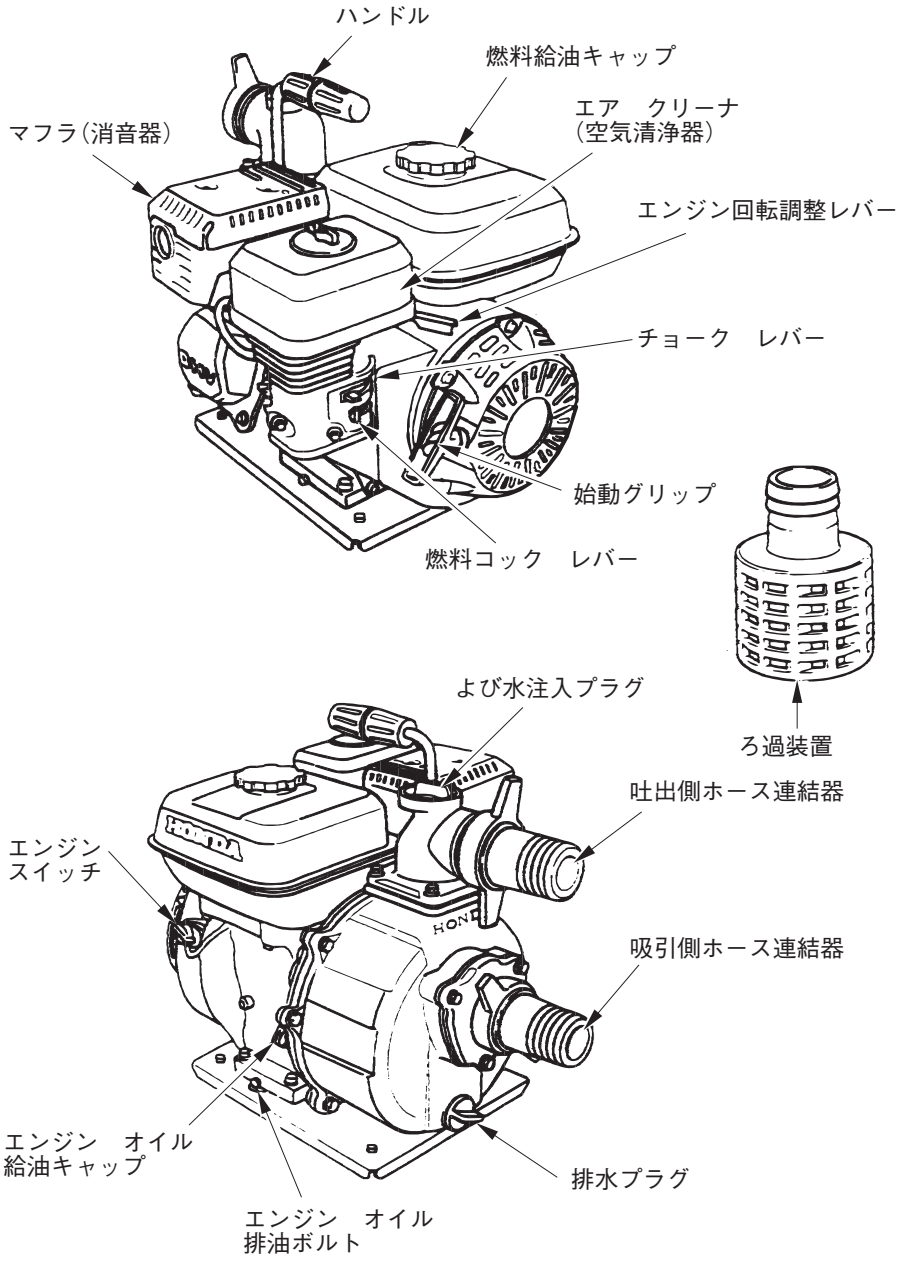
●安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルははっきりと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。
安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

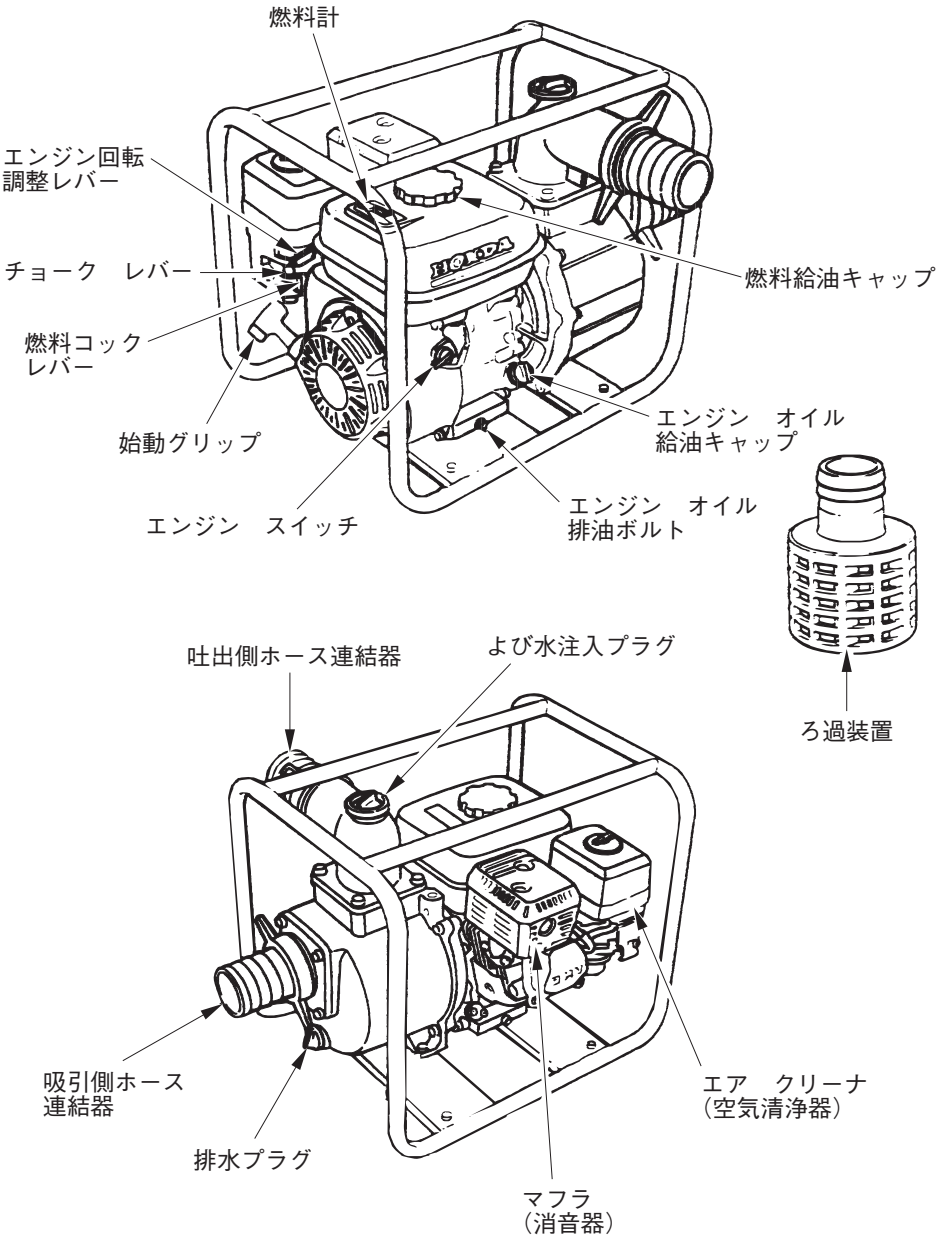


各部の名称と取扱いをおぼえましょう

● WH15X

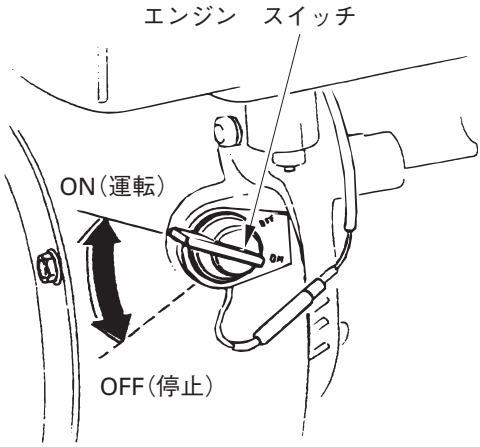


● WH20X


燃料計
エンジン回転
調整レバー
チョーク　レバー
燃料コック
レバー
始動グリップ
エンジン　スイッチ
燃料給油キャップ
エンジン　オイル
給油キャップ
エンジン　オイル
排油ボルト
ろ過装置
吐出側ホース連結器
よび水注入プラグ
吸引側ホース
連結器
排水プラグ
マフラ
（消音器）
エア　クリーナ
（空気清浄器）

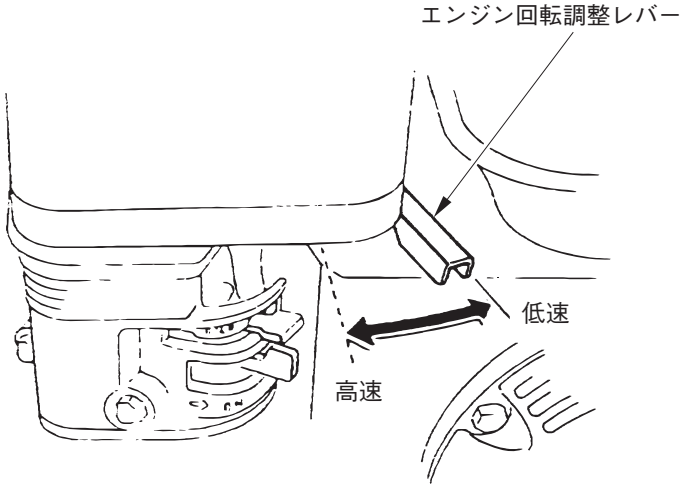
エンジン　スイッチ

エンジンを運転、停止させるときに操作します。



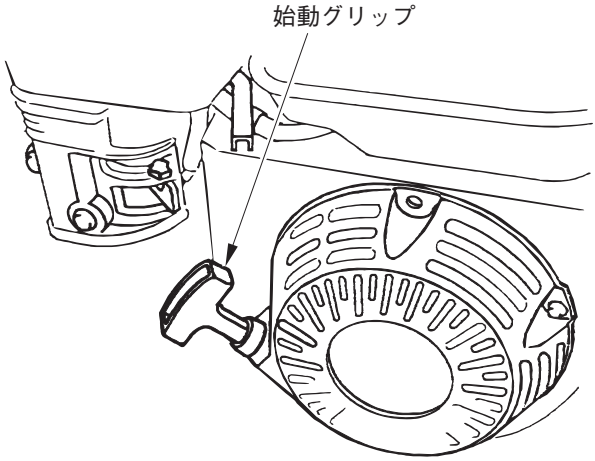
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。
通常は**“高速”**の位置でご使用ください。



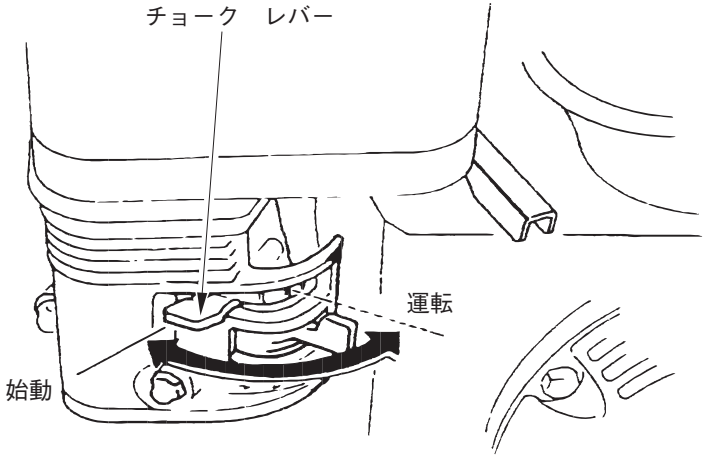
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



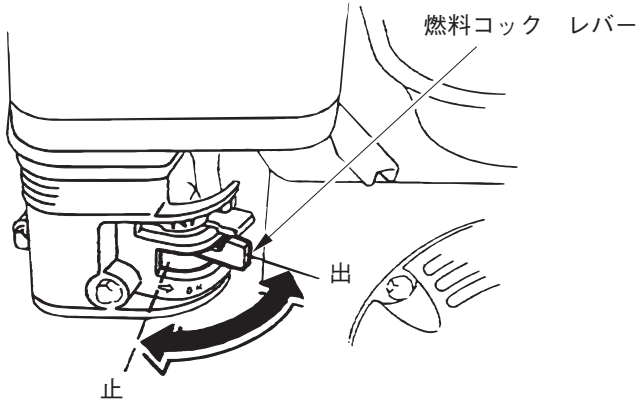
チョーク　レバー

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



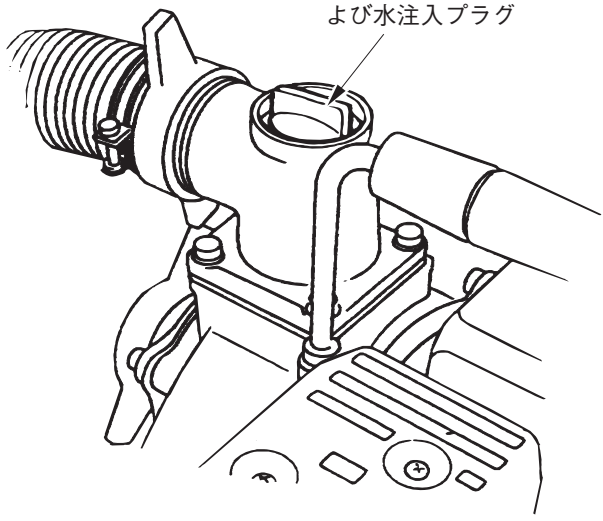
燃料コック　レバー

燃料タンクからキャブレータ(気化器)までの通路を開閉するときに操作します。操作は確実に**“出”“止”**の位置に合わせてください。



よび水注入プラグ

ポンプによび水を注入するときに操作します。



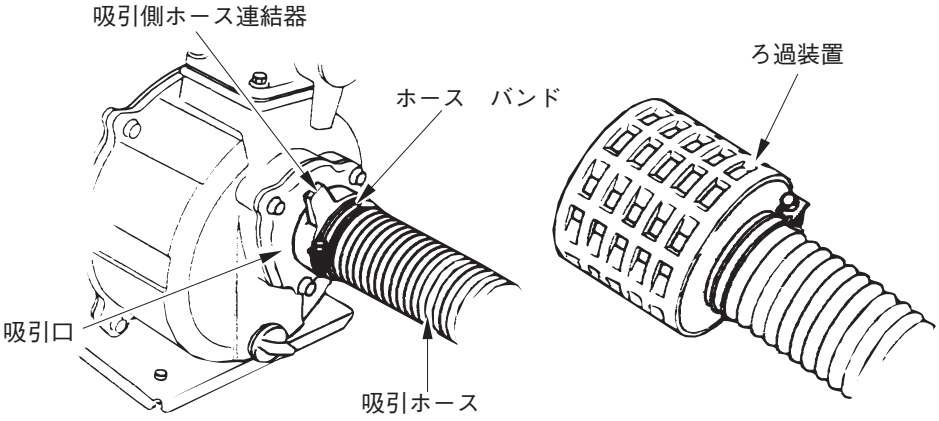
ホースの取付けかた

吸引ホース

1. 吸引側ホース連結器に吸引ホースを取付け、ホース　バンドを確実に締付けます。
2. ホース連結器を吸引口に確実に締付けます。

取扱いのポイント

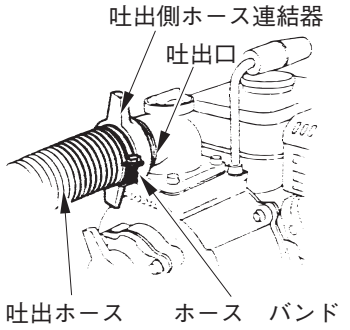
- ホース　バンド、ホース連結器を確実に締付け空気が入るのを防止してください。締付けが不完全だと吸水しない場合があります。
- 吸引ホースの長さは短いほど吸込量が多く、吸水時間が短くなります。極端にホースが長いと吸水しない場合があります。
- 吸引ホースにはろ過装置を取付けてください。ろ過装置を取付けないと土砂やその他の異物などにより、本機が損傷するおそれがあります。



吐出ホース

1. 吐出側ホース連結器に吐出ホースを取付け、ホース　バンドで確実に締付けます。
2. ホース連結器を吐出口に確実に締付けます。

●吸引･吐出ホースはお買いあげ販売店にご相談の上お買いもとめください。



エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップを外してください。

ガソリンの点検

⚠警告

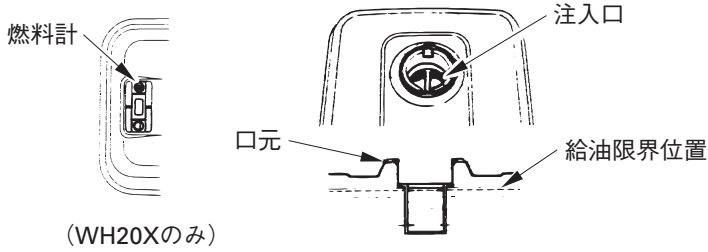
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
・エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で補給してください。
・火気を近づけないでください。
・身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
・ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれた場合は布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
・燃料は注入口の口元まで入れず、給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

点　検

燃料給油キャップを外し、ガソリンがあるか点検します。(燃料計の付いている機種は、燃料計で点検します。)少ないときには図の上限位置を越えないように補給してください。

補　給

使用ガソリン：無鉛レギュラーガソリン



（WH20Xのみ）

●燃料給油キャップを外し、給油限界位置を超えないように補給します。
●補給後、給油キャップを確実に締付けてください。

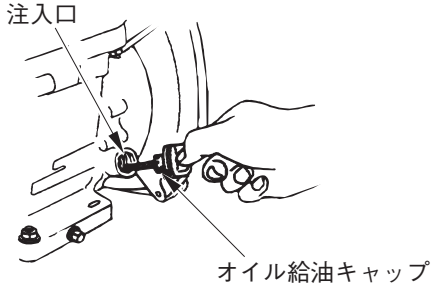
取扱いのポイント

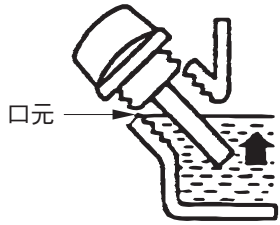
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので30日に１回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エンジン　オイルの点検

点　検

エンジンを水平にした状態でオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。

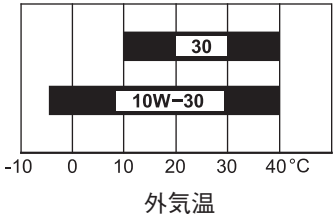




補　給

- 少ないときには新しいオイルを注入口の口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は27、28頁参照)補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
- 推奨オイル：(4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル)
  Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)
  またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



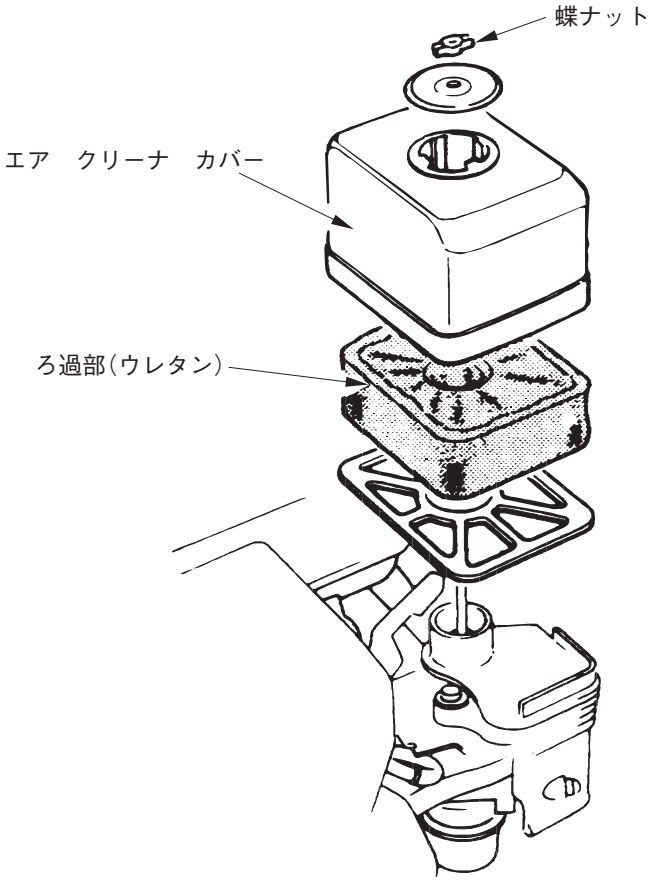
エンジン　オイル量：0.6ℓ

取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の点検

1. 蝶ナットを外し、エア　クリーナ　カバーを外します。
2. ろ過部(ウレタン)の汚れを点検します。
3. 汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。(29頁参照)



取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

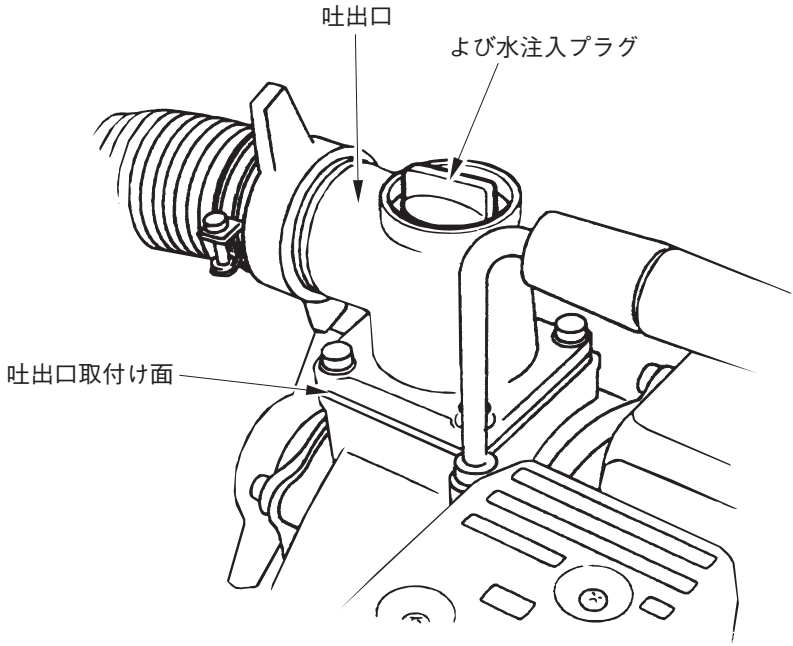
よび水の点検

よび水注入プラグを外し、吐出口の下面までよび水があるか点検します。少ないときには補給してください。

- よび水が少ないとポンプは水を十分に吸い上げません。
- 補給後、よび水注入プラグを確実に締付けてください。

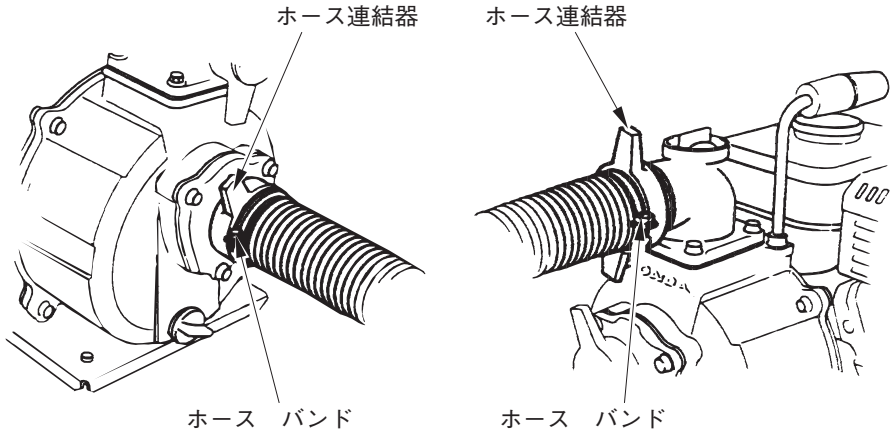
取扱いのポイント

- よび水なしでの空運転はしないでください。過熱してポンプのシール部を損傷するおそれがあります。万一空運転した場合は、すぐによび水を入れずポンプ部の温度が下がってから入れてください。



ホース　バンド、ホース連結器の締付け点検

ホース　バンド、ホース連結器の締付けにゆるみがないか点検します。締付けが十分でないときには、空気を吸い込み、吸水しない原因ともなりますので確実に締付けてください。

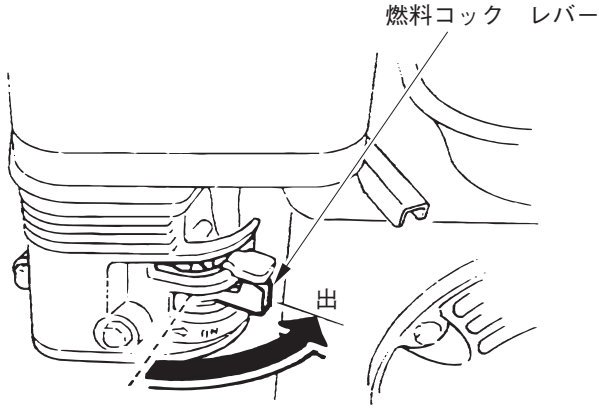


エンジンのかけかた

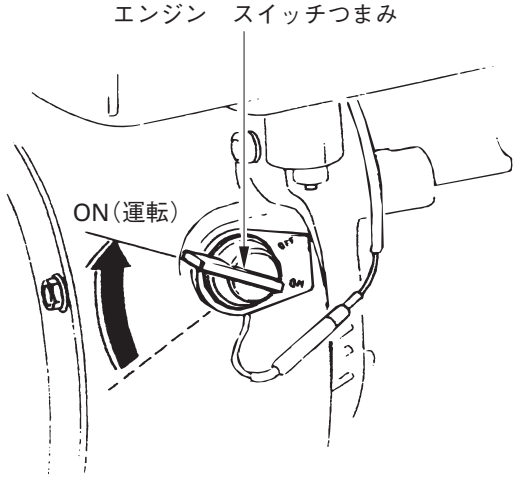
⚠警告

屋内や換気の悪い場所では、エンジンを始動しないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

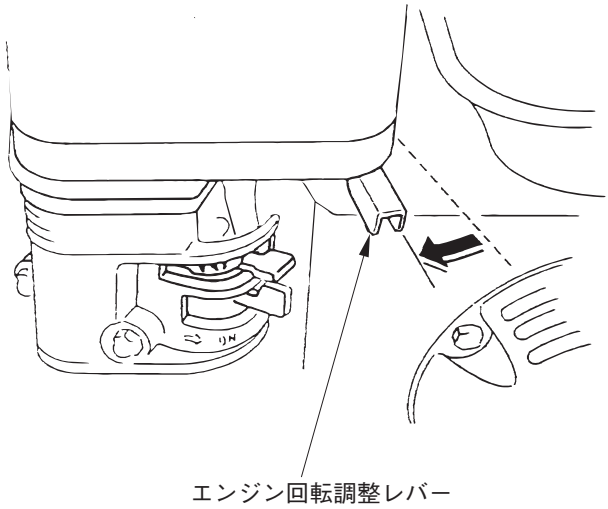
1. 燃料コック　レバーを“出”の位置に合わせます。



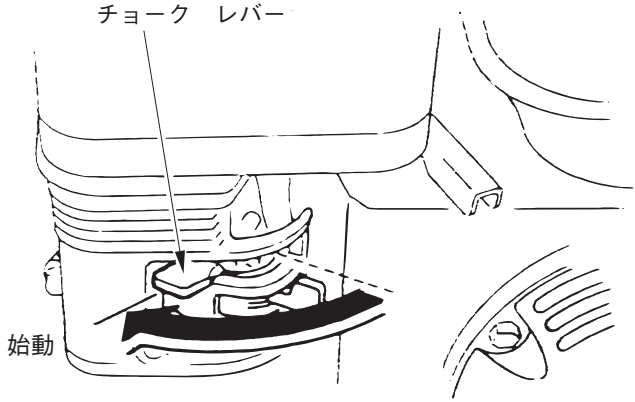
2. エンジン　スイッチつまみを“ON（運転）”の位置に合わせます。



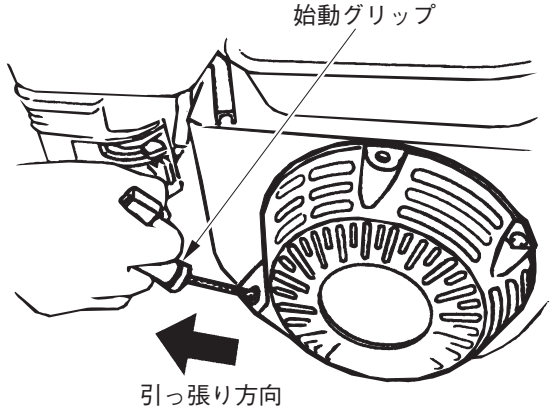
3. エンジン回転調整レバーを**“低速”**の位置から左に少し動かします。



4. エンジンが冷えているときやエンジンがかかりにくいときには、チョーク　レバーを**“始動”**の位置に合わせます。



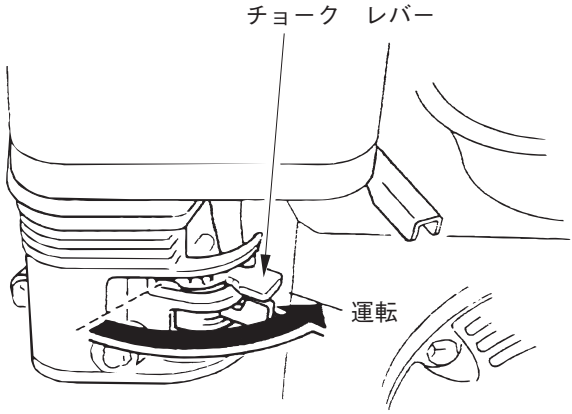
5. 始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。
エンジンが始動します。



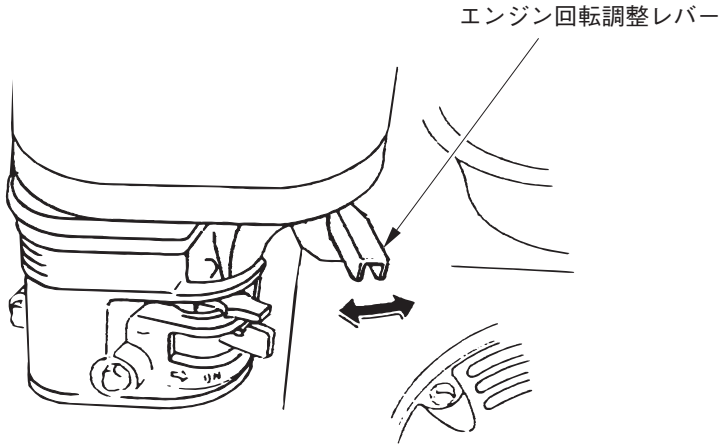
取扱いのポイント

始動グリップを引き上げた位置から手を離さないでください。グリップや回りの部品を破損することがあります。また運転中はグリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

6. 2 ～ 3 分間暖機運転を行います。
チョーク　レバーを操作したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に戻します。



7. エンジン回転調整レバーを使用したい回転に調節します。

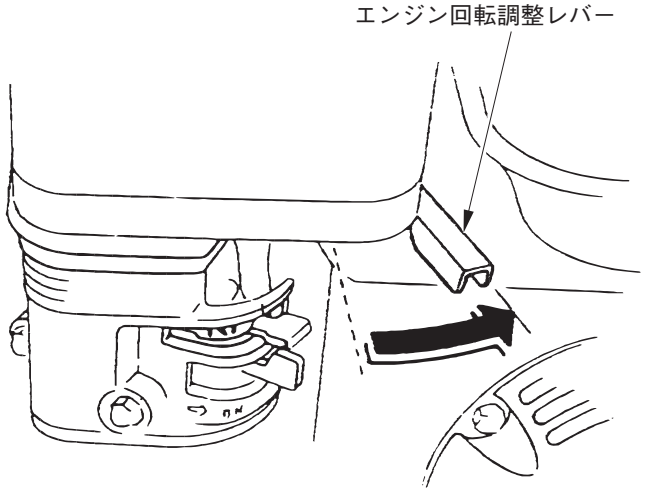


取扱いのポイント

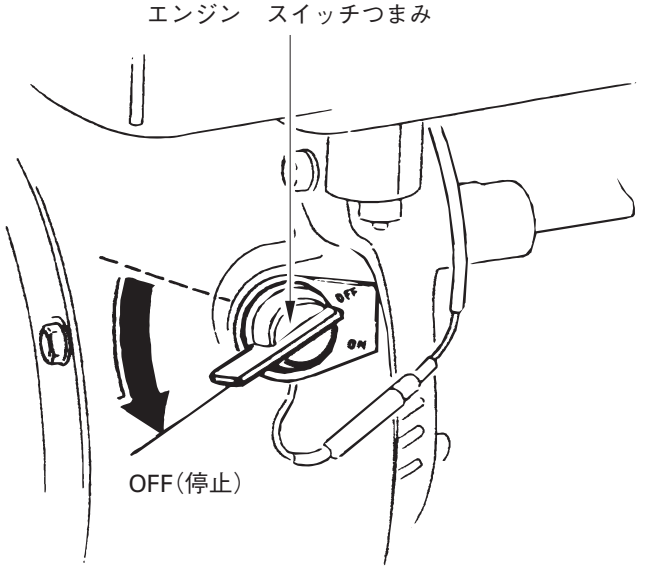
使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

エンジンのとめかた

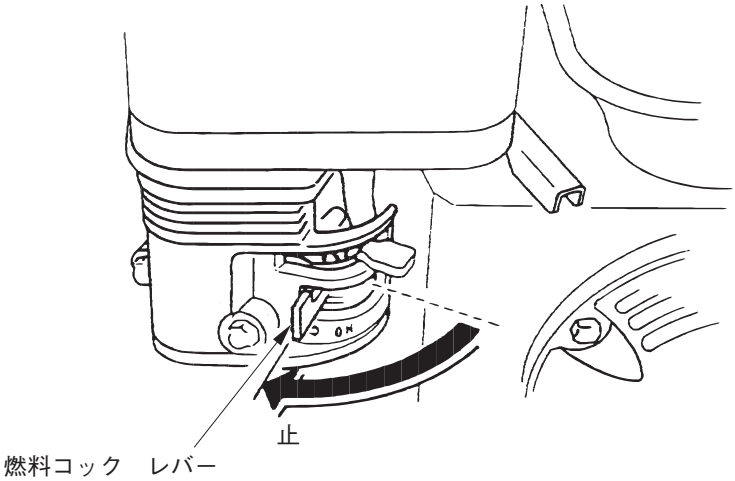
1. エンジン回転調整レバーを上にいっぱい“低速”の位置まで戻します。



2. エンジン　スイッチつまみを“OFF(停止)”の位置に合わせます。

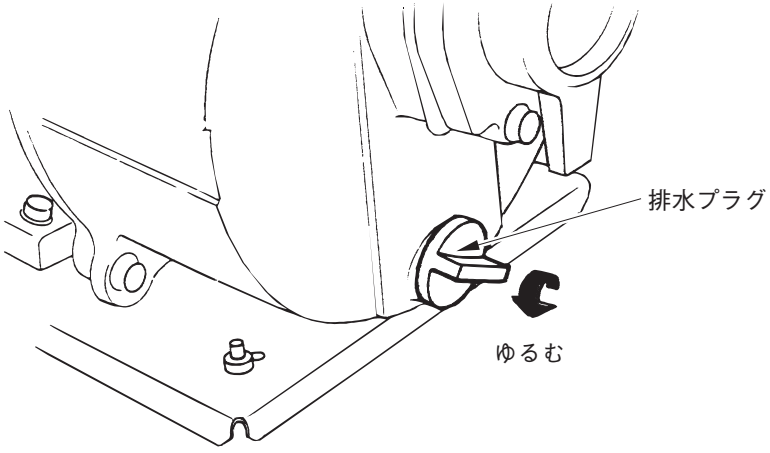


3. 燃料コック　レバーを“止”の位置に合わせます。



取扱いのポイント

気温が低く水が凍結する気象条件で使用した場合は、排水プラグを外しポンプ内の水を抜いてください。ポンプ内に水が残っていると凍結し、部品が破損するおそれがあります。



定期点検を行いましょう

お買いあげいただきましたHondaポンプをいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を受けましょう。

定期点検整備項目

点検時間(3) / 点検項目		作業前点検	1ヶ月目または初回20時間運転目	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎
エンジン　オイル	点検	○				
	交換		○		○	
エア　クリーナ	点検	○				
	清掃			○(1)		
点火プラグ	点検－調整				○	
	交換					○
燃料ろ過カップ	清掃				○	
アイドリング回転	点検－調整					○(2)
吸入･排気弁隙間	点検－調整					○(2)
燃焼室	清掃	500時間運転毎(2)(4)				
燃料タンク･燃料ろ過網	清掃				○(2)	
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(2)				
インペラ	点検					○(2)
インペラ　クリアランス	点検					○(2)
ポンプ吸入弁	点検					○(2)

(1)ホコリの多い所で使用した場合は、エア　クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
(2)販売店またはサービス店で実施していただく項目です。
(3)点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(4)表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠注意
点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップを外してください。

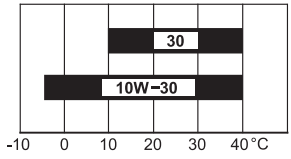
エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》
初回：１ヶ月目または20時間運転目
以後：６ヶ月毎または100時間運転毎

《推奨オイル》（４サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）
Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

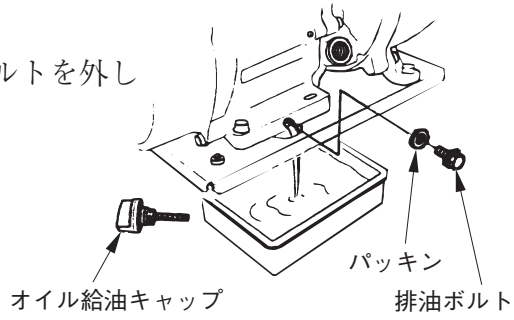
エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



《規定量》 0.6ℓ

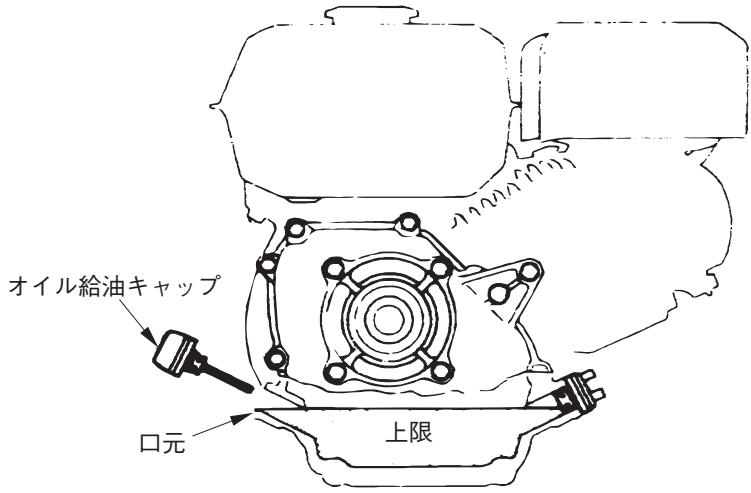
⚠注意
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

《交換のしかた》
1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。



2. オイルが完全に抜けたら排油ボルトを確実に締付けます。このときパッキンは新しい部品と交換してください。

3. エンジン　オイルを注入口の口元まで注入します。



4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。

取扱いのポイント

- 交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上処理してください。
- オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検･交換をしてください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃

エア　クリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

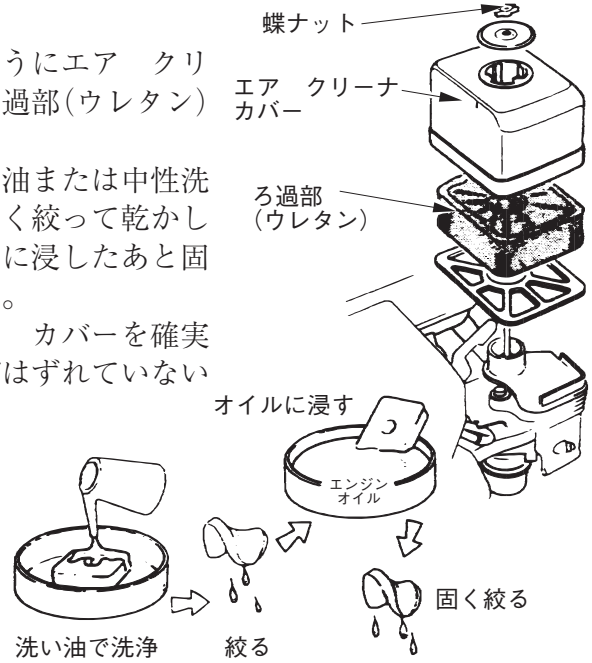
⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》　3ヶ月毎または50時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は10時間毎または1日1回。

《清掃のしかた》

1. 蝶ナットを外し、図のようにエア　クリーナ　カバーを取り、ろ過部(ウレタン)を取外します。
2. ろ過部(ウレタン)は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。エンジン　オイルに浸したあと固く絞ってから取付けます。
3. 点検後はエア　クリーナ　カバーを確実に取付けたあと接続部がはずれていないか確認してください。



取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの点検･調整･交換

⚠注意

エンジン停止直後マフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分に冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

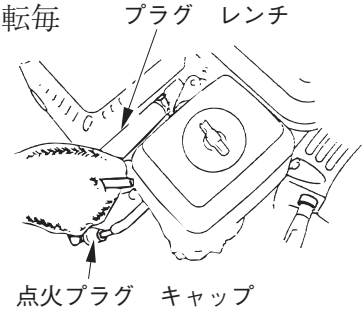
《点検･調整時期》６ヶ月毎または100時間運転毎

《交換時期》　１年毎または300時間運転毎

《清掃のしかた》

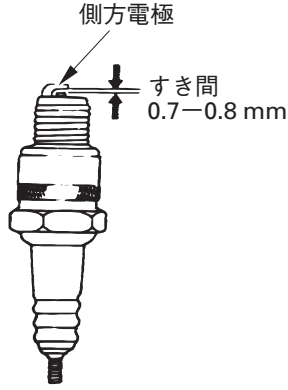
1. 点火プラグ　キャップを外し、プラグ　レンチで点火プラグを取外します。
2. プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

● プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。



《調　整》

3. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。
   火花すき間：0.7－0.8 mm



《標準プラグ》

BP6ES, BPR6ES (NGK)
W20EP－U, W20EPR－U (DENSO)

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
  点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締込んでください。
- 点検調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付けてください。
  確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

燃料ろ過カップの清掃

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

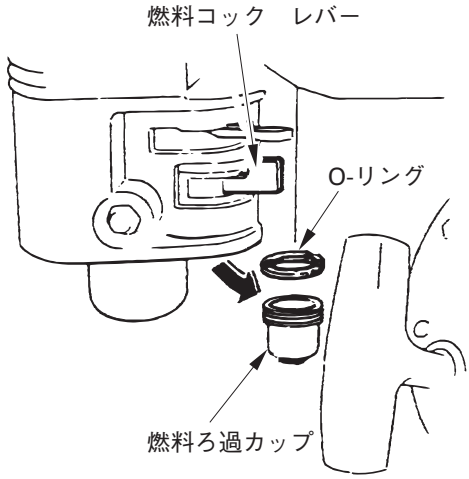
燃料ろ過装置内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

《清掃時期》

6ヵ月毎または100時間運転毎

《清掃のしかた》

1. 燃料コック　レバーを“止”にします。
2. 燃料ろ過カップの六角部をゆるめて取外します。
3. 燃料ろ過カップを洗い油でよく洗い底にたまったゴミや水を取除きます。
4. 清掃後、ガソリン漏れのないよう燃料ろ過カップは確実に締付けてください。



長期間使用しないときの手入れ

★長時間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

⚠注意

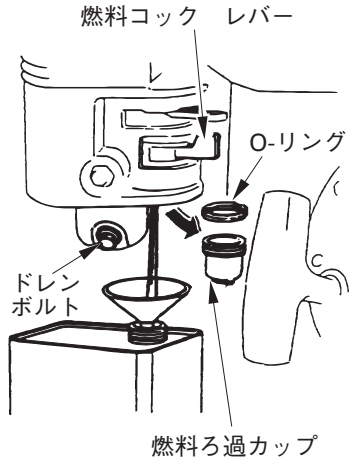
エンジン停止直後はエンジン本体マフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため、点火プラグ　キャップを点火プラグから取外してください。

1 燃料タンク、キャブレータ内のガソリンを抜きます。

《抜きかた》

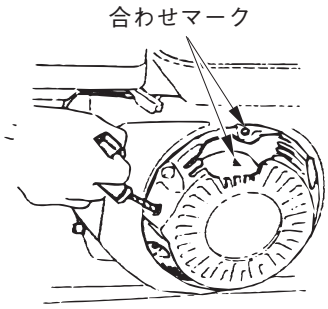
1. 燃料コック　レバーを“OFF(閉)”にします。
2. 燃料ろ過カップの六角部をゆるめて取外します。
3. 燃料コック　レバーを“ON(開)”にしてタンク内のガソリンを容器に受けてください。
4. キャブレータ内のガソリンはドレン　ボルトをゆるめ燃料を容器に受けてください。
5. 完全に燃料が抜けたら燃料ろ過カップ、ドレン　ボルトを元の状態に戻し、燃料コック　レバーを“OFF(閉)”にします。

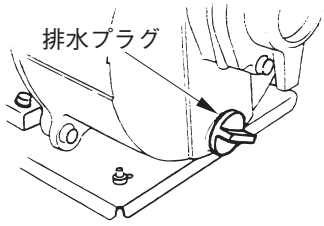


⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

2 エンジン　オイルを交換します。(交換方法は27、28 頁参照)
3 エア　クリーナ(空気清浄器)を清掃します。(清掃方法は29頁参照)
4 始動グリップを重くなるまで引き、プーリのマークとファン　カバーのマークを合わせます。(エンジン　バルブが閉じ燃焼室内にホコリなどが入らない状態になります。)
5 排水プラグを外し、吸引口または吐出口よりきれいな水でポンプ内の土砂、異物などを洗い出します。内部清浄後は完全に水を抜いてください。その後、排水プラグを確実に締付けてください。
6 湿気、ホコリの少ないところに保管してください。





取扱いのポイント

次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。

故障のときは

まずご自分で次の点検を行い、その上でなお異常のあるときには、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は取扱説明書通りですか?（20～23頁参照）
2. ガソリンはありますか?（14、15頁参照）
3. エンジン　オイルは規定量ありますか?（16頁参照）
4. 点火プラグ　キャップは確実に取付けられていますか?（30頁参照）
5. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか?（30頁参照）
   ・点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確めましょう。

ポンプが吸水しないときは次の点を確認しましょう。

- ホース　バンド、ホース連結器の締付けは完全ですか?
- よび水は吐出口の下面まで入っていますか?

主要諸元

〈ポンプ〉

項目	仕様諸元	
モデル	WH15X	WH20X
吸込側口径	40 mm（1.5インチ）	50 mm（2インチ）
吐出側口径	40 mm（1.5インチ）	50 mm（2インチ）
全揚程	最大50 m	
吸込揚程	最大8 m	
最大吐出量	毎分400 ℓ	毎分500 ℓ
外観寸法		
全長	430 mm	520 mm
全幅	360 mm	400 mm
全高	400 mm	450 mm
乾燥質量［重量］	22.0 kg	27.0 kg

〈エンジン〉

モデル	GX120	GX160
形式	単気筒4サイクル頭上弁式	
排気量	118 cm^3	163 cm^3
（内程×行程）	(60.0×43.0 mm)	(68.0×45.0 mm)
点火方式	トランジスタ　マグネト点火	
オイル量	0.6 ℓ	
タンク容量	2.0 ℓ	3.1 ℓ
点火プラグ	BP6ES, BPR6ES (NGK) W20EP－U, W20EPR－U (DENSO)	

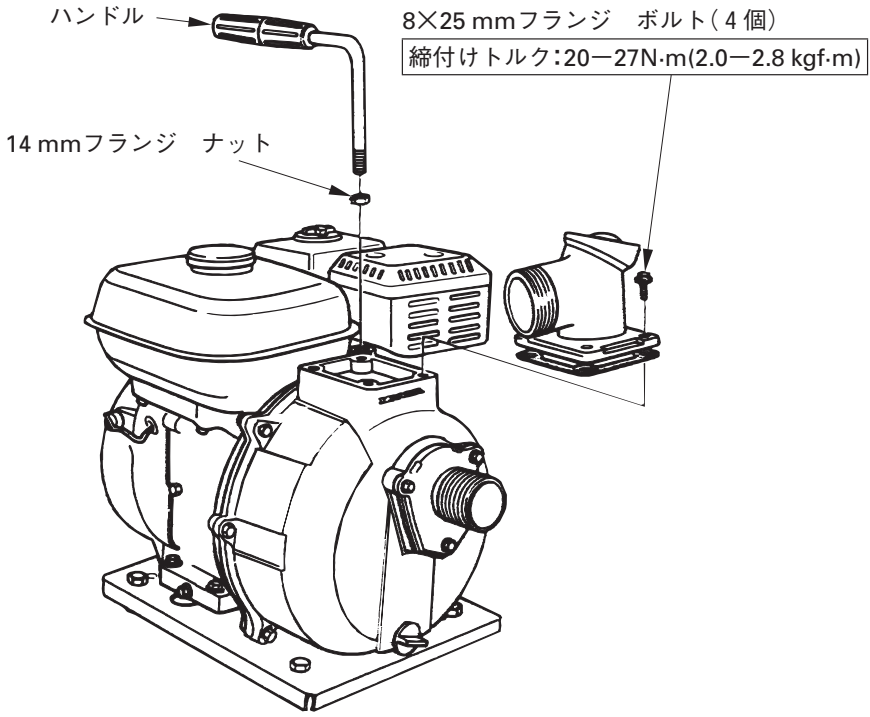
注意：諸元は予告なく変更することがあります。

同梱部品の組付けかた

● WH15X

ハンドル

ハンドルを一杯に締めた状態から、グリップの部分が燃料タンクの方向を向くまで戻します。14 mmフランジナットをしっかりと締付けます。
締付けトルク：29－39 N·m (3.0－4.0 kgf·m)



Honda汎用製品についてのご相談・ご意見は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

全国共通フリーダイヤル　　0120-112010
（受付時間　　9：00～12：00　　13：00～17：00）

HONDA

The Power of Dreams

30YB7703
00X30-YB7-7030

Ⓢ Ⓞ ⒽⒸ 200.2010.06
© 2003 本田技研工業株式会社